

児童福祉学科

■ 児童福祉学科 目次

教養科目

体育（講義）	1
体育（実技）	2
外国語 A	3
外国語 B	4
文章表現実践	5
日本国憲法	6
情報科学	7

保育の本質・目的に関する科目

保育原理	8
教育原理	9
子ども家庭福祉	10
社会福祉	11
子ども家庭支援論	12
社会的養護 I	13
保育者論	14

保育の対象の理解に関する科目

保育の心理学	15
子ども家庭支援の心理学	16
子どもの保健	17
子どもの理解と援助	18
子どもの食と栄養	19

保育の内容・方法の理解に関する科目

保育の計画と評価	20
保育内容総論	21
子どもと健康	22
子どもと人間関係	23
子どもと環境	24
子どもと言葉	25
子どもと表現	26
子どもと音楽	27
子どもと造形	28
乳児保育 I	29
乳児保育 II	30
障害児保育	31
社会的養護 II	32
子育て支援	33
子どもの健康と安全	34

保育実習

保育実習 I	35
保育実習指導 I	36

総合演習

保育実践演習 I	37
保育実践演習 II	38

保育に関する科目	
障害児の心理	39
障害児の病理と保健	40
家庭生活基礎	41
リハビリテーションの理論と技法	42
子どもと感情理解	43
子どもと音楽表現	44
子どもと造形表現	45
子どもと体育	46
保育内容応用演習	47
障害児(者)の音楽活動の支援	48

保育実習	
保育実習Ⅱ	49
保育実習Ⅲ	50
保育実習指導Ⅱ	51
保育実習指導Ⅲ	52

特設科目	
施設基礎実習	53
保育所基礎実習	54
レクリエーション援助技術	55
障害者スポーツ指導員養成講座	56

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	体育(講義) 必修・講義・1 5 時間・1 単位	教員名	南波 紀子
概 要 及び 目 的	健康の意義・増進を図り、運動の意義について考え、運動による身体・精神面への影響について理解し、日常生活における保健の基礎知識を深める。		
授業内容	1. 教育と体育 2. 健康と社会 3. 運動の生理 4. 体力の概念 5. 生活と運動 6. 運動処方計画 7. 薬物・アルコール・たばこと健康 8. 青年期の性		
評価方法	筆記試験、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。		
テキスト	特になし 必要に応じてプリントを配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科																																
科 目 名	体育(実技) 必修・実技・30 時間・1 単位	教員名	南波 紀子																																
概 要 及び 目 的	多種のスポーツ種目を通して、技術の習得、体力の維持増進を図る。 また、ニュースポーツも体験、理解する。																																		
授業内容	<table><tr><td>1. オリエンテーション</td><td>授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動</td></tr><tr><td>2. 体力チェック</td><td>現時点での自己体力確認</td></tr><tr><td>3. ソフトバレーボール</td><td>基礎技能の習得</td></tr><tr><td>4. ソフトバレーボール</td><td>ルール説明、ゲーム、審判</td></tr><tr><td>バレーボール</td><td></td></tr><tr><td>5. 体力づくり運動</td><td></td></tr><tr><td>6. 卓球</td><td>基礎技能</td></tr><tr><td>7. 卓球</td><td>ルール説明、ゲーム、審判</td></tr><tr><td>8. ニュースポーツ</td><td>屋内</td></tr><tr><td>9. 水泳実習</td><td></td></tr><tr><td>10. 水泳実習</td><td></td></tr><tr><td>11. ニュースポーツ</td><td>屋外</td></tr><tr><td>12. 縄</td><td>短縄</td></tr><tr><td>13. 縄</td><td>大縄</td></tr><tr><td>14. バドミントン</td><td>基礎技能の習得</td></tr><tr><td>15. バドミントン</td><td>ルール説明、ゲーム、審判</td></tr></table>			1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動	2. 体力チェック	現時点での自己体力確認	3. ソフトバレーボール	基礎技能の習得	4. ソフトバレーボール	ルール説明、ゲーム、審判	バレーボール		5. 体力づくり運動		6. 卓球	基礎技能	7. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判	8. ニュースポーツ	屋内	9. 水泳実習		10. 水泳実習		11. ニュースポーツ	屋外	12. 縄	短縄	13. 縄	大縄	14. バドミントン	基礎技能の習得	15. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判
1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動																																		
2. 体力チェック	現時点での自己体力確認																																		
3. ソフトバレーボール	基礎技能の習得																																		
4. ソフトバレーボール	ルール説明、ゲーム、審判																																		
バレーボール																																			
5. 体力づくり運動																																			
6. 卓球	基礎技能																																		
7. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判																																		
8. ニュースポーツ	屋内																																		
9. 水泳実習																																			
10. 水泳実習																																			
11. ニュースポーツ	屋外																																		
12. 縄	短縄																																		
13. 縄	大縄																																		
14. バドミントン	基礎技能の習得																																		
15. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判																																		
評価方法	出席と受講態度、課題テストを総合評価する																																		
テキスト	特になし 必要に応じてプリントを配布																																		
備 考	スポーツウェア、屋内、屋外シューズ、ゼッケンの用意																																		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	外国語 A 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	宮宅 由美子
概 要 及 び 目 的	園生活のさまざまな場面に対応できる英語表現を習得すると共に、子供と一緒に遊べる英語ゲーム、歌、手遊びができるように演習する。		
授業内容	1. Self-Introduction & Greetings 2. The School Year Begins 3. Arrival 4. Playtime in the Classroom 5. In the Sandbox 6. In the Playground 7. Lunchtime 8. Changing Clothes and Story Time 9. NapTime 10. Blowing Bubbles 11. A Sick Child 12. Preparation for the Sports Day 13. The Sports Day 14. Going for a Walk 15. まとめ、テスト		
評価方法	1. 試験 2. 授業態度・出席点 3. 発表点他		
テキスト	教科書：「新保育の英語」三修社 必要に応じて資料を配布する		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	外国語 B 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	
概 要 及び 目 的	外国人に話しかけられて、簡単な受け答えができるようになることを目標とする。 基本の単語を使って、ゲームなどをし、言いまわしや単語を覚えていく。 学外でのネイティブの方との交流活動も実施する。		
授業内容	1. COLORS 2. BODY 3. CAN 4. HAVE 5. PLEASE 6. BEARHUNT 7. HALLOWEEN 8. CHRISTMAS 9. MOCHI NEW YEARS 10. HELLO&ALTERNATIVE GREERINGS 11. BEDROOM, HOUSE&TOWN 12. EVERYDAY : MORNING, AFTERNOON, NIGHT 13. 5 SENSES : LOOK, LISTEN, SMELL, TASTE, TOUCH 14. LIKE 15. SKYPE ONLINE COMMUNITY, NETWORKING		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点 3. レポート		
テキスト	資料配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	文章表現実践 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	廣本 勝裕
概 要 及 び 目 的	多様な題材による総合的な表現の実践を中心に、様々な種類の文章がわかりやすく適切に書けるようになることを目的とします。		
授業内容	1. 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現実践』の学習内容を把握しよう。」 2. 文章表現の基礎（1） 「日本語の成り立ちと特徴を理解し、文章表現の基本を確認しよう。」 3. 文章表現の基礎（2） 「漢字・仮名・その他の記号を適切に活用しよう。」 4. わかりやすく適切に伝えるために（1） 「文章の特長が生かせるテーマを決め、形式を整えて記述しよう。」 5. わかりやすく適切に伝えるために（2） 「構成を工夫し、明確な根拠に基づいて自分の意見を展開しよう。」 6. わかりやすく適切に伝えるために（3） 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7. 表現を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を充実しよう。」 8. 表現を確かにするために 「口語文法を確認するとともに表現技法（修辞法）を身に付けよう。」 9. 表現を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章の向上を図ろう。」 10. 敬語法の理解と実践 「相手や場を念頭に置いた敬語の基本的な使い方を習得しよう。」 11. 各種の情報をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を読み取り、分析・検討を行おう。」 12. 様々な種類の文章を書く（1） 「短編小説を読んで、感想をまとめるとともに、その短編小説の続きを構想しよう。」 13. 様々な種類の文章を書く（2） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」 14. 様々な種類の文章を書く（3） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の在り方を検討しよう。」 15. まとめの学習 「これまでの学習を振り返り、多様な課題の解決を通じて身に付けたことを確認しよう。」		
評価方法	◎ 各授業で取り組んだ課題の提出状況 ◎ 第15時間目の「まとめの学習」の達成状況		
テキスト	○ 授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。		
備 考	○ 授業には、「国語辞典」（現在持っているものでよい）を持参してください。 ○ 授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ1.5cm程度の標準的なものでよい）を1部用意してください。		

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	日本国憲法 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	大田 晋
概 要 及 び 目 的	我われは、社会に生きている限り何らかのルールの中で生きている。そのルールこそが「法」であり、共通の約束事である。人権という「人としての権利、個人としての権利」を保障するための基本となる「法」は「憲法」である。講義では、はじめに「法・法律」全般について学び、次に「日本国憲法」について国民主権、基本的人権、平和主義、国家統治機構などについて詳しく学習する。 こうした学習を通して、国民として「社会と法、個人と法」の関係を理解でき、また、社会人として「自由と責任、権利と義務」の正しい認識と判断ができる人間に近づくことを目標とする。		
授業内容	1. 講義のオリエンテーション（講義概要、講義の狙い、講義の受け方など） 2. 「法」とはなにか ～ 意味、役割、理解の仕方 3. 「法」の体系 4. 「法律」の基礎知識（1） 5. 「法律」の基礎知識（2） 6. 憲法 ～ 意味、全体像 7. 憲法 ～ 制定の歴史 8. 憲法 ～ 国民主権 9. 憲法 ～ 基本的人権（総論） 10. 憲法 ～ 基本的人権（各論 1） 11. 憲法 ～ 基本的人権（各論 2） 12. 憲法 ～ 平和主義 13. 憲法 ～ 国家統治機構（1） 14. 憲法 ～ 国家統治機構（2） 15. 期末試験		
評価方法	1. 期末試験 2. レポート 3. 出席状況		
テキスト	教科書なし。参考書「目で見る憲法」（第 4 版、初宿正典ほか、有斐閣、2014） 但し、「日本国憲法」（童話社）を購入のこと。		
備 考	毎回配布する講義レジュメを大学ノート A 4 判左ページに貼り、右ページに講義で聞いたこと書き取るにより自分のノートを作成すること。（ノートのみ期末試験時に持込み可）		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	情報科学 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	上田 千恵
概 要 及 び 目 的	児童福祉現場におけるコンピュータ利用は様々であり、増加傾向である。園便り、児童票はもちろん、写真やビデオを取り込んで発表会などで利用するムービーを作成など、コンピュータ利用知識と技術の修得が必要となってきた。そこで、本科目では、ワープロソフトや表計算ソフトの利用を中心に、画像の扱い方なども演習を通して習得する。		
授業内容	1. パソコンの基本操作、現場での利用について 2. 情報社会とネットワーク 3. 画像・映像の扱いについて ・イメージスキャナの使い方と画像の取り込み ・デジタルカメラの使い方と画像の取り込み 4. ワードプロソフトへの画像挿入、加工、印刷 ・グリーンティングカードなどの作成 5～6. ワードプロソフトの活用 ・レポートや報告書などの作成 7～9. ワードプロソフトの活用 ・園便りの作成 10. 表計算ソフトの利用 ・グラフや住所録などの作成 11. 表計算ソフトの利用 ・条件でのデータの絞り込み 12. ワードプロソフトでの表計算ソフトのデータ利用 ・宛名などの作成（住所録から差込印刷） 13～14. スライド作成ソフトの利用 15. まとめ テスト		
評価方法	1. 課題（作品）に対する取組み 2. レポート、授業の確認テスト 3. 授業参加度（出席、受講態度など）		
テキスト	教科書：「30時間アカデミック」 情報リテラシーOffice2016 その他：必要があれば関連資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育原理 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	小合 明美
概 要 及 び 目 的	【授業全体の内容と概要】 保育所保育の特性は、子どもの最大の利益を考慮し、教育と養護が一体となった保育実践を提供していくことにある。本授業では、そのような保育実践の背景にある「基本原理・思想」を理解するとともに、保育を取り巻く社会状況、歴史、制度など保育に関する「社会認識」を深める。また、それらの学習を踏まえ、「保育の実践原理」についての学習を行う。		
授業内容	保育の意義 1. 保育の理念と概念 2. 保育の対蒙としての子ども 3. 福祉としての保育 保育の基本原則 4. 保育所保育指針の考え方 5. 発達過程に応じた保育 6. 保育実践の構成原理 保育の内容と方法 7. 保育のねらいと内容 8. 遊びと環境構成 9. 保育実践における P D C A サイクル 保育の思想と制度の歴史 10. 保育の思想史 11. 日本の保育の制度史（戦前） 12. 日本の保育の制度史（戦後） 保育の現状と課題 13. 保育における地域連携 14. 保護者支援における保育士の役割 15. 保育業務の全体像		
評価方法	1. 試験 2. 出席点 3. レポート		
テキスト	教科書 池田隆英編著『なぜからはじまる保育原理』建帛社 参考文献：森上史郎『最新保育用語辞典』ミネルヴァ書房 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	教育原理 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	檜原 靖
概 要 及 目 的	本講は、まず“教育とは、人とは”の考察、更に“人の発達過程”について考える。次に、厚生労働省が提示している、保育士養成のためのカリキュラムに基づいて、教育学の基礎理論の学習を行う。 ①教育の意義 目的および こども家庭福祉等 との関わりについて ②教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について ③教育制度について ④教育実践の様々な取り組みについて ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について学習する。		
授業内容	単元Ⅰ オリエンテーション 1 なぜ保育士をめざす為に「教育原理」が必要なのか？ —教育的支援者としての保育士— 2 教育は人類に何をもたらしたのか？ —教育とは？ 教育の発生と果たす役割— —生物の遺伝、著作「エミール」(ルソー)、生理的早産説(ポルトマン)— 単元Ⅱ 人の発達過程の理解 3 人の発達段階と発達課題 —一般的な発達を知り、各支援に生かす— 4 認知・自己の発達・対人関係の発達について —ピアジェ(認知能力の発達) エリクソン(自己意識の発達)— —ホスピタリズムと愛形成論(ボルビッチ)— 単元Ⅲ 教育の意義 目的および 子ども家庭福祉等 との関わりについて理解する 5 教育の意義 6 教育の目的 7 乳幼児期の教育の特性 (追加) 8 教育と子どもの家庭福祉の関連性 (元 児童福祉等 から変更) 9 人間形成と家庭・地域・地域社会等との関連性 単元Ⅳ 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する 10 諸外国の教育の思想と歴史 11 日本の教育の思想と歴史 12 子ども観と教育観の変遷 単元Ⅴ 教育制度について理解する 13 教育制度の基礎 14 教育法規・教育行政の基礎 15 諸外国の教育制度 単元Ⅵ 教育実践の様々な取り組みについて理解する 16 教育実践の基礎理論(内容・方法・計画と評価) 17 教育実践の多様な取り組み (モンテソーリ理論・シュタイナー幼稚園) 単元Ⅶ 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する 18 生涯学習社会と教育 19 現代の教育課題		
評価方法	1. 出席点 2. 講義内レポート 3. テスト		
テキスト	必要に応じて資料を配布。 マーカー、A4の2穴ファイル用意しておいてください。		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子ども家庭福祉 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 び 目 的	子ども家庭福祉の歴史的変遷、現代社会における子ども家庭福祉の意義について学び、保育との関連性及び子どもの人権について考えを深める。さらに、子ども家庭福祉に関する制度と実施体系を学び、多様化しているニーズに対してどのような取り組みがなされているかを理解する。それらを踏まえ、子ども家庭福祉の現状や課題を把握し、子育て支援、子どもの成長・発達の支援、親子関係の支援を中心に、一人ひとりが人間として大切にされる社会の実現について考える力を養う。		
授業内容	1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向 3. 子どもの人権擁護 4. 子ども家庭福祉の制度と実施体制 5. 子ども家庭福祉の施設と専門職 6. 少子化と地域子育て支援 7. 母子保健と子どもの健全育成 8. 多様な保育ニーズへの対応 9. 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 10. 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応 11. 社会的養護 12. 障害のある子どもへの対応 13. 少年非行等への対応 14. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 15. まとめと試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点 レポート提出などを加味する。		
テキスト	<テキスト>中央法規出版 新基本保育シリーズ 子どもと家庭福祉		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	社会福祉 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 び 目 的	社会福祉は、一人ひとりの生活を豊かにするためだけでなく、社会全体の在り方にも影響を与える重要な仕組みである。人はいつの時代も幸せを求め生活を営んでいるということを、社会福祉の歴史的変換、現代社会における社会福祉を学習することにより理解する。また、社会福祉の制度や実施体系等について学習することで、社会福祉の意義や役割を理解し、人の幸せを支えるための創造力を養う。		
授業内容	1. 社会福祉の理念と歴史的変遷 2. 子ども家庭支援と社会福祉 3. 社会福祉の制度と法体系 4. 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 5. 社会福祉の専門職 6. 社会保障および関連制度の概要 7. 相談援助の理論 8. 相談援助の意義と機能 9. 相談援助の対象と過程 10. 相談援助の方法と技術 11. 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 12. 少子高齢化社会における子育て支援 13. 共生社会の実現と障害者施策 14. 在宅福祉・地域福祉の推進 15. まとめと試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出などを加味する。		
テキスト	必要に応じて資料を配布 中央法規出版 新基本保育シリーズ 社会福祉		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子ども家庭支援論 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	花房 香
概 要 及 び 目 的	本講義では、現代社会において多様化する家族の様相を知るとともに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援のあり方について学習する。家族の意義とその機能、また現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援サービスなどを理解し、保育現場で求められる支援のあり方について学ぶ。		
授業内容	1. 家族とは何か 2. 家族の意義 3. 家族の機能 4. 現代家庭の現状と課題 5. 家庭支援のあり方 6. 家庭と子育て 7. 家庭生活を取り巻く社会的状況 8. 現代家庭の人間関係 9. 地域社会の変容と家庭支援 10. 現代における子育て家庭への支援 11. 子育て家庭への支援政策 12. 保育からみた子育て家庭への支援 13. 子育て家庭支援のための関係機関連携 14. 保育現場での家庭支援の現状 15. 保育現場での今後の家庭支援のあり方		
評価方法	1. レポート点 2. 試験 3. 出席点		
テキスト	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」ミネルヴァ書房		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	社会的養護 I 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	高才 彰
概 要 及 び 目 的	社会的養護とは、何らかの事情のため生まれた家庭や親の元で育つことができない児童を国や社会が公的責任で保護し養育する社会システムを指す。社会的養護の充実度合がその国の文化のバロメーターともいわれる。近年の「子どもの貧困」や「児童虐待」の顕在化に伴い、社会的養護の役割は重要性を増している。 授業では、社会的養護の現代的意義、その歴史と児童の権利の進展、児童福祉法等による制度整備と実施体系、従事する保育士や専門職員の業務、社会的養護の現状と課題について理解することを目的とする。		
授業内容	1. 社会的養護の理念と概念 2. 社会的養護の歴史的変遷 3. 子どもの人権擁護と社会的養護 4. 社会的養護の基本原則 5. 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6. 社会的養護の制度と法体系 7. 社会的養護の仕組みと実施体系 8. 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 9. 社会的養護の対象と支援の在り方 10. 家庭養護と施設養護 11. 社会的養護にかかわる専門職 12. 社会的養護に関する社会的状況 13. 施設等の運営管理の現状と課題 14. 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 15. 社会的養護と地域福祉の現状と課題		
評価方法	① 授業中に行う小テスト（配点 20 点） ② 学期末試験（配点 80 点） ①と②の合計点で成績評価をします。		
テキスト	新・基本保育シリーズ 社会的養護 I 相澤 仁、林 浩康編集 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5786-1		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育者論 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	溝口 佳代
概 要 及 び 目 的	保育所・幼稚園で働く保育者の専門性について理解を深める。 保育者としての責務・専門性等を理解したうえで、自分なりの保育者像をつくりあげ、 理論的に考え、実践に結びつけることのできる能力を培う。		
授業内容	1. 保育者の役割（グループワーク） 2. 保育者の役割 3. 保育者の倫理 4～5. 保育者の資格と責務 6. 養護と教育の一体的展開 保育者の資質と能力 7. 計画に基づく保育の実践と省察・評価 8. 保育の質の向上 9. 園での協働 専門機関との連携・協働 保護者および地域社会との連携・協働 自治体との連携・協働 10. 保育者の専門性の発達 保育者のキャリア形成の意義 11～14. 保育の現状理解 15. 組織とリーダーシップ		
評価方法	1. 試験 2. レポート・出席点などを加味する		
テキスト	「保育者論」 中央法規		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育の心理学 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	花房 香
概 要 及 び 目 的	子どもの発達を心理学的視点から学ぶことを目的とする。発達理論、知覚、学習、思考の発達、社会的行動の発達など、さまざまな側面から人間の発達について学び、子どもを理解し、適切な保育、教育が行なえるようになることを目指す。		
授業内容	1. 保育と心理学の関連 2. 発達心理学と保育 3. 身体の発達 4. 知的な発達 5. 情緒の発達 6. 人格の発達 7. 対人関係の心理学と保育 8. ことばの発達 9. ことばと対人関係 10. 保育とことば 11. 数についての発達と保育 12. 保育環境と保育 13. 遊びの発達 14. 遊びと保育 15. 保育施設での関わり		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点		
テキスト	無藤隆 他編 新プリマーズ「発達心理学」ミネルヴァ書房		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子ども家庭支援の心理学 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	石井 佳菜子
概 要 及 び 目 的	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に促える視点を習得する。 子育て家庭をめぐる現代社会の状況と課題について理解する。 子どもの精神保健とその課題について理解する。		
授業内容	1. 乳児期の発達 2. 幼児期の発達 3. 学童期の発達 4. 青年期の発達 5. 成人期・中年期の発達 6. 高齢期の発達 7. 家族・家庭の意義と機能 8. 家族関係・親子関係の理解 9. 子育ての経験と親としての育ち 10. 子育てを取り巻く社会的状況 11. ライフコースと仕事・子育て 12. 多様な家庭とその理解 13. 特別な配慮を要する家庭 14. 子どもの生活・生育環境とその影響 15. 子どもの心の健康に関わる問題		
評価方法	授業への積極的参加の態度及び小テスト、終講試験で評価する。		
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」 中央法規出版2019		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもの保健 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	山口 玲子
概 要 及 び 目 的	子供の健康に関する保健活動や子供の発育発達について理解し、子どもの健康観察や異常の早期発見、感染症予防、疾病時の対応など保育現場における保健活動に必要な知識を習得する。		
授業内容	1. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2. 健康の概念と健康指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4. 地域における保健活動と子ども虐待防止 5. 身体発育及び運動機能の発達と保健 6. 生理機能の発達と保健 7. 健康状態の観察 8. 発育・発達の把握と健康診断 9. 保護者との情報共有 10. 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気 11. 主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気 12. 主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫の病気、腎泌尿器、内分泌の病気 13. 主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の疾患 14. 主な疾病の特徴⑤ 感染症 15. 子どもの疾病と予防と適切な対応		
評価方法	1. 試験 2. 出席状況		
テキスト	子どもの保健 中央法規出版 その他、必要に応じて資料配布する		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもの理解と援助 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	鈴木 晶子
概 要 及 び 目 的	一人一人の子どもの気持ちを理解し、必要な援助を行うことができる保育士を目指し、そのために不可欠なコミュニケーション技法や人間理解のためのさまざまな視点を心理学の理論を用いて解説する。 また、演習を通じて自己理解を深め、事例を通じて子ども理解を深めていく。		
授業内容	1. 自己理解と他者理解 2. コミュニケーション 3. 子どもに対する関わりと共感的理解 4. ロジャース、アクスラインの原則 5. アサーション 6. 集団における人間 7. 自己制御機能 8. いざこざやけんかにおける保育者の関わり 9. 子どもと環境 10. 保護者理解と援助 11. ストレス 12. 防御機制 13. 児童虐待とその影響 14. トラウマと心のケア 15. テスト		
評価方法	1. 終講テスト 2. 演習や事例検討への参加意欲 3. レポート		
テキスト			
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育内容総論 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	藤田 順子
概 要 及 び 目 的	保育内容や歴史的変遷等、保育の全体的構造、また、子どもの主体性を育むことを基本としながら、保育生活が養護と教育の一体的な展開であることを学ぶ。そして、環境構成や援助を行う実践力、子どもとの総合的な関わりができるようにする。		
授業内容	1. 保育内容とは 2. 保育内容の歴史的変遷と保育生活の全体的構造 3. 発達のとらえ方と保育内容 4. 保育内容における遊びの意味 5. 保育の一日と内容 6. 多様な保育・子育て支援の展開 7. 乳児保育 8. 長時間の保育 9. 病児・病後児保育・特別な支援を必要とする子どもの保育 10. 多文化共生の保育 11. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携 12. 保育内容と子ども理解 13. 保育内容の今日的課題と保育者の専門性 14. 今後の保育内容の課題と展望 15. まとめとテスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点 4. その他		
テキスト	教科書：咲間まり子 コンパス保育内容総論 建帛社 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと健康 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	西原 嘉子
概 要 及 び 目 的	乳幼児期における、心と体の発育・発達や基本的な生活習慣の形成、食育、安全教育など保育の中で留意すべき保育環境のあり方などについて学ぶ。 また、子どもが健康で安全にすごすための保育計画を作成する基礎を培っていく。		
授業内容	1. 領域「健康」のとらえ方と目指すもの 2. " 3. 幼児の発育・発達 4. " 5. 幼児の生活習慣と健康 6. " 7. 幼児の健康維持・増進のための身体活動 8. " 9. 保育における運動指導と留意点 10. " 11. 健全な発育・発達の測定と評価方法 12. 安全管理と安全教育 13. 運動あそびなど 14. 保育の計画と指導案 15. まとめとテスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点 4. その他		
テキスト	教科書：春日 晃章 「保育内容 健康」 みらい 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと人間関係 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	鈴木 晶子
概 要 及び 目 的	現代社会において、子どもが人との関わりの中で成長し自立していく過程を理解し、その過程における保育者としての役割やかかわり方について学ぶ。		
授業内容	1～2. 人間関係とは 3. 領域「人間関係」とは 4. 現代社会の人間関係 5～6. 子どもの発達と人間関係 7. 遊びと人間関係 8～9. 個と集団の育ち 10. 人間関係で気になる子ども 11. 子どもの人とかかわる力を育む保育者の役割 12. 幼児教育の現代的課題と「人間関係」 13～14. 保育者同士の人間関係 15. テスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点		
テキスト	塚本美知子「人間関係」萌文書林		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと環境 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	小合 明美
概 要 及 び 目 的	乳幼児期の保育にとって環境が重要な要素になっていることを理解する。さらに子どもの健全な発達には、どのような環境を準備設定するか、また、その環境への子どもの関わり方はいかにあるべきかを実践も踏まえながら「環境とかかわる力」を育てる保育内容について学習する。		
授業内容	1. 保育とは何か 2. 領域「環境」について 3. 子どもの生活と環境との関わり 4. 園の環境構成 5. 物との関わりと遊び 6. 自然環境との関わり 7. サツマイモの苗の植えつけ 8. 数量と図形との関わり 9. 幼児と文字、標識との関わり 10. 科学との出会いと環境 11. 保育と行事 12. 子どもをとりまく社会環境 13. 障害児の保育環境 14. 環境教育、子どもを取り巻く情報メディア 15. まとめとテスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点		
テキスト	教科書：[新版] 保育内容 環境 無藤隆・中坪史典・後藤範子 編著 大学図書出版 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと言葉 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	西原 嘉子
概 要 及 び 目 的	子どもの言葉の発達を理解し、保育者が実践すべき指導や援助について、基本的な知識や事例を中心に学ぶ。 また、児童文化財など実践的な取り組みを行っていく。		
授業内容	1. 保育内容「言葉」の意義 2. 領域「言葉」の「ねらい」および「内容」 3. " 4. " 5. 子どもの言葉の発達 6. " 7. 子どもの言葉と環境 8. 保育者の指導・支援 9. 言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援 10. 保育者の言葉 11. 児童文化財 12. " 13. " 14. 「言葉」の指導計画 15. まとめとテスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点 4. その他		
テキスト	教科書：駒井美智子 保育者をめざす人の保育内容「言葉」 みらい 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 (チャイルド本社)		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと表現 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	平野 昌子・大下 諭史
概 要 及 び 目 的	乳幼児の音楽的発達をふまえて、見たり、聞いたり、感じたことを表現する方法について理解を深め、歌唱・器楽・鑑賞・動きのリズムなどの指導に必要な基礎的知識と表現能力を発達させるための関わり方を学習する。 オペレッタ・器楽合奏を通して、総合的な「動き」「造形」「音」等の表現方法を自ら考え、創作、製作する能力を養う。		
授業内容	1. リズムをとる 2. 身体を大きく使う事になれる 3. ステップを覚える 4～5. 振りを考える 6～7. グループに分かれて、曲を決めて振りを考える 8～9. うたの曲決め 10～13. 練習・振り付け 14～15. 発表会の準備		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点を加味する		
テキスト	参考書：『ダルクローズ・システムによるリトミック指導 1、2、3』 全日本リトミック音楽教育研究会 編		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと音楽 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	大下 諭史
概 要 及 び 目 的	音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を読み、理解力を伸ばすとともに、音楽的表現力、個性を生かした音楽活動ができるようにする。楽器演奏や歌唱を通して、コードネームの習得、単純な伴奏法を身につけ、保育者としての音楽能力を習得する。更には、実践展開のための音楽技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレーズ等）を体得する。		
授業内容	1～3. 基礎知識とト音記号・ヘ音記号 4～5. 譜表 6. 音符の長さとその種類 7. 休符の長さとその種類 8. リズムとリズム譜 9. 臨時記号とその種類 10～11. テンポ用語 12～13. 強弱の変化・曲想・奏法についての用語と記号 14～15. 反復記号 16～18. 音程 19～21. コード 22. まとめ・試験 23～24. 音楽鑑賞 25～27. 和音・移調 28～30. 合奏		
評価方法	1. 試験 筆記：前期・後期 2. 出席点を加味する 3. その他（ノート・ワークブック提出）		
テキスト	教科書：東京教育研究協会『幼児の音楽教育－音楽的表現の指導－』音楽教育研究会 小林美実監修、井戸和秀編『子どものうた100』チャイルド本社 小林美実編、『続・子どものうた200』チャイルド本社 橋本晃一編 ピアノ弾けるよ！楽典ワーク ドレミ楽譜出版社 その他：必要に応じてプリントを配布、VTR使用		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと造形 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	野村 恵里・檜原 靖
概 要 及 び 目 的	造形活動の基礎を体験通して、その後の実際の保育のための造形活動に資する知識・技能を養う。 実技・演習等を通して、造形の基礎技能の取得と、素材・用具の取り扱い方についての習熟を図り、保育士に必要な造形表についての理解・教養を深める。		
授業内容	(担当：檜原) 1～3. 平面 1) 紙について 2) 鉛筆を使う(削る)フリーハンドの線による平面構成 3) 定規を使って線を引く 直線による平面構成 4) フロッタージュ・コラージュ・エンボス 5) 素描(立方体など) 4～6. 色彩 1) 三属性・色相環 2) 色の見え方(対比、進出後退、膨張収縮、視認性) 3) 色と感情(寒色暖色、軽重、硬軟、派手地味、陽気陰気) 4) トーン別配色・色彩調和論 5) 色彩による平面構成 7～9. 立体 1) テクニカルイラストレーション(等角図) 2) パース(1点・2点透視図) 3) 素描(鉛筆による) 4) 素描(粘土による) 10～11. レタリング 1) レタリングの構成要素を知る(永字八法) 2) ゴシックの構成要素 3) 明朝の構成要素 4) レタリングによる平面構成 (担当：野村) 12. オリエンテーション いろいろな画材を使って ①染め紙 13. " ②マープリング 14. " ③野菜スタンプ 15. 粘土造形 小麦粉粘土 16. 画用紙を使って 壁面製作① 17. " ② 18～20. 共同製作 21. 季節の飾り作り 22～24. 廃材を使って 25～29. パネルシアター作り 30. まとめとテスト		
評価方法	(檜原) 1. 出席点 2. 作品点(毎時課題有) (野村) 1. テスト 2. 出席点を加味する 3. その他(受講態度、作品の評価など)		
テキスト	幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材 必要プリント、課題用紙を配布		
備 考	(檜原) 前時に次回必要用具・道具を連絡します。		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	乳児保育 I 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子
概 要 及び 目 的	1. 乳児保育の意義、目的及び役割について学ぶ。 2. 保育所や多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3 歳未満児の保育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 4. 職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。		
授業内容	1. 乳児保育の目的と役割 2. 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 3. 保育所における乳児保育 4. 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 5. 家庭的保育・小規模保育などにおける乳児保育 6. 3 歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 7. 0 歳児～満 3 歳児の生活と環境 8. 0 歳児～満 3 歳児の遊びと環境 9. 0 歳児～満 3 歳児の保育に移行する時期の保育 10. 0 歳児～満 3 歳児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 11. 0 歳児～満 3 歳児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 12. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 13. 職員間の連携・協働 14. 保護者との連携・協働 15. 自治体や地域の関係機関等との連携・協働		
評価方法	1. 試験 2. レポート		
テキスト	教科書：寺田清美 大方美香 塩谷 香『基本保育シリーズ 乳児保育』 乳児保育 I・II <改訂版>		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	乳児保育Ⅱ 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	室崎 美佐子
概 要 及 び 目 的	1. 3 歳未満児の発育や発達を踏まえた援助や関わりの基本的な考えを理解する。 2. 養護と教育の一体性を踏まえ、乳児保育における計画の作成について理解するとともに、生活や遊び保育の方法及び環境について学ぶ。 3. 乳児保育における配慮の実際について学ぶ。		
授業内容	1. 乳児保育の基本 2. 子どもの生活の流れ（0 歳児クラス） 3. 子どもの保育環境（0 歳児クラス） 4. 子どもの援助の実際（0 歳児クラス） 5. 子どもの生活の流れ（1 歳児クラス） 6. 子どもの保育環境（1 歳児クラス） 7. 子どもの援助の実際（1 歳児クラス） 8. 子どもの生活の流れ（2 歳児クラス） 9. 子どもの保育環境（2 歳児クラス） 10. 子どもの援助の実際（2 歳児クラス） 11. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 12. 集団での生活における配慮 13. 環境の変化や移行に対する配慮 14. 長期的な指導計画と短期的な指導計画 15. 個別的な指導計画と集団の指導計画		
評価方法	1. 試験 2. レポート		
テキスト	教科書：寺田清美 大方美香 塩谷 香『基本保育シリーズ 乳児保育』 乳児保育Ⅰ・Ⅱ <改訂版>		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	障害児保育 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	赤木 剛
概 要 及 び 目 的	障害児保育を支える理念に関して理解を深め、現在の子どもをとりまく現状及び今後の課題について学習する。また、様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点と、具体的な保育方法について学び、子どもたちの個人差を個性の違いと保育者が受け止める中で、一人ひとりが保育の場で自分らしく過ごせるのが保育の基本であることを理解する。		
授業内容	1. 障害の概念と障害児保育の歴史的変遷 2. 発達の見方と発達の評価 3. 知的障害児の理解と保育 4. 発達障害児の理解と保育① 5. 発達障害児の理解と保育② 6. 身体障害児の理解と保育 7. 発達が気になる子どもの保育 8. インクルーзив保育とは 9. アセスメントについて 10. 個別支援計画の作成 11. 家族支援について 12. 職員間の協力関係 13. 家庭や関係機関との連携 14. 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 15・16. 障害児保育の実際 17～21. 障害のある子どもとの交流会 22・23. 障害のある子どもの早期発見と早期支援 24～29. 障害児保育で必要な支援技法 30. まとめと試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポート提出などを加味する		
テキスト	<テキスト> 萌林書林 実践に生かす障害児保育 <参考文献> ① 萌林書林 障害児保育ワークブック ② 中央法規 基本保育シリーズ 障害児保育		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	社会的養護Ⅱ 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	仁木 健次
概 要 及び 目 的	1. 社会的養護の歴史的な位置づけ及びその理念・基本について学習する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について学習する。特に岡山県中央児童相談所等と連携し、里親、養護系施設職員の講和等を通して一層の理解を深める。 3. 社会的養護に関わる相談援助の支援・技術等について、その基本を具体的に学習する。 4. 社会的養護における被虐待児童のケアと家庭支援について、その基本を学習する。 5. 社会的養護における支援計画、記録、評価の実際について、その基本を学習する。		
授業内容	1. 社会的養護（Ⅰ・Ⅱ）とは何か ー救済慈善事業等の歴史ー 2. 社会的養護の基本理念 ー権利擁護・個別化・家族支援等ー 3. 社会的養護と保育士 ー施設養護と家庭養護ー 4. 社会的養護のプロセス ー現状と課題 事例を通して学ぶー 5. 社会的養護 援助と支援の実際 ー養護系施設の日常生活援助ー 6. 社会的養護 援助と支援の実際 ー障がい児系・治療系・育成系施設の援助ー 7. こころの援助 ー安心と安全・個別化・愛着関係の形成・グリーフケアー 8. 子どもとのコミュニケーション ーハロー・ポリアンナ・ピグマリオン効果等ー 9. 虐待を受けた子どもへの支援 ー治療的アプローチ 事例を通して学ぶー 10. 社会的養護 援助と支援の実際 ー県中央児相 里親出前講座ー 11. 社会的養護 援助と支援の実際 ー家族再統合 事例から学ぶー 12. 自立への援助・支援 ー自立支援計画・リービングケアとアフターケアー 13. 関係機関・学校・地域との連携 ー事例から学ぶー 14. 児童福祉施設等管理運営 ー被措置児童の虐待防止と人材育成ー 15. 児童福祉施設等の援助者としての保育士 ーチームワーク・専門性と職業倫理ー		
評価方法	期末試験、課題レポート、リアクションペーパー（授業参加意欲）等により総合的に評価する。その比率は、概ね 7：2：1 である。		
テキスト	辰己隆・岡本眞幸編集「改訂 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ」（株）みらい		
備 考	第10回は、岡山県中央児童相談所等と連携し「里親出前講座」を実施する。 子どもと家庭の福祉の第一線で職務に従事している児童相談所職員、里親及び養護系施設職員等の講和、体験談等を聞くことにより、社会的養護の今日的課題について一層の理解を深める。 なお、関係機関等との調整上、授業内容等の変更はありえる。		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子育て支援 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	太田 修平
概 要 及び 目 的	近年、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の制定によりこども園が創設され、地域の子育て支援が義務づけられる等、子育て支援の拡充が図られている。 本カリキュラムでは、保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解することを目標にして学習する。		
授業内容	1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援 2. 保護者との相互理解と信頼関係の形成 3. 支援のニーズへの気づきと多面的な理解 4. 子育て支援におけるプロセスの意義 5. 支援の計画と環境の構成 6. 支援の実践 7. 職員間の連携 8. 社会資源の活用 9. 保育所における支援 10. 地域の子育て家庭に対する支援 11. 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援 12. 特別な配慮を必要とする子どもおよびその家庭に対する支援 13. 虐待予防と対応 14. 復習 15. まとめ・テスト		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点 3. レポート		
テキスト	必要に応じて資料を配布 中央法規 新基本保育シリーズ 子育て支援 公益財団法人 児童育成協会監修		
備 考			

年次・学期	2 年次	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもの健康と安全 必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	
概 要 及び 目 的	子どもの保健で学んだ知識をもとに、子どもの健康管理や発育発達に応じた養護、健康上の問題が生じた倍胃の適切な対処方法など保育現場での実践能力を養う。		
授業内容	1. 子どもの健康と保育の環境 2. 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 3. 衛生管理 4. 事故防止及び安全対策 5. 災害への備えと機器管理 6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 7. 救急処置及び救急蘇生法 8. 感染症の集団発生と予防 9. 保育における保健的対応の基本的な考え方 10. 3 歳未満児への対応 11. 個別的な配慮を有する子どもへの対応 12. 障害のある子どもへの対応 13. 職員間の連携・協働と組織的取組 14. 保育における保健活動の計画及び評価 15. 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携		
評価方法	1. 実習、演習への参加状況 2. 試験 3. 出席状況		
テキスト	プリント配布 「子どもの健康と安全」 中央法規出版		
備 考	実習は、グループに別れて行う予定です。動きやすい服装で参加して下さい		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習 I 必修・実習・180 時間・4 単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子・太田 修平
概 要 及 び 目 的	保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員、児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育所、児童福祉施設における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に子どもへの理解や職員間のチームワークのあり方を模索させ、理論を実践の場で具体化することを目的に、利用児や園児の観察の仕方、関わり方など、体験を通して理解できるようにする。		
授業内容	< 保育所 > 1. 保育所の役割と機能 2. 子どもの理解・発達年齢の把握 3. 保育内容・保育環境 4. 保育の計画・観察記録・指導案作成 5. 保育の実践・記録 6. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 < 児童福祉施設 > 1. 施設の役割と機能 1) 施設の生活と一日の流れ 2) 施設の役割と機能 2. 利用児・者の理解 1) 利用児・者の観察とその記録 2) 個々の状態に応じた援助や関わり 3. 養護内容・生活環境 1) 計画に基づく活動や援助 2) 利用児・者の心身の状態に応じた対応 3) 利用児・者の活動と生活の環境 4) 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 1) 個別支援計画の理解と活用 2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 1) 保育士の業務内容 2) 職員間の役割分担や連携 3) 保育士の役割と職業倫理		
評価方法	1. 実習施設による評価 2. レポート（実習日誌 実習報告書） 3. 出席点を加味する		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 「保育実習の手引」 民秋 言他編 新保育ライブラリー「施設実習」北大路書房 教科書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領＜原本＞ 実習の記録と指導案 ひかりのくに 乳児の発達と保育 エイデル研究所 その他必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期 2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習指導 I 必修・演習・90 時間・2 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	保育実習の意義・目的を明確にするとともに保育所や障害児（者）施設における保育実習の必要性や保育士の担う役割を学ぶ。また、保育所や障害児（者）施設の体系や法的根拠についても理解を深め、保育実習を行なう上で必要となる知識を身につける。		
授業内容	↑ 実習前 ↓ 実習中 ↑ 実習後 ↓ 1. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーション等を行う 1) 保育実習の意義・目的・内容の理解 2) 障害児（者）施策に関する法律・制度の理解 3) 保育実習の方法の理解 4) 実習の心構えの理解、とくに個人のプライバシーの保護と守秘義務、利用児（者）の人権尊重についての理解 5) 実習における計画と実践・観察と記録及び評価 6) 実習課題の明確化 7) 実習記録の意義・方法の理解 8) 実習施設の理解 9) 提出書類の作成 10) 教材の作成 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の担当者との連携をもとに、実習生へのスーパービジョンを行なう 3. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる 1) ふり返し発表 2) 実習評価による今後の課題設定		
評価方法	1. 試験 2. レポート 3. 出席点を加味する		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 「保育実習の手引」 教科書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞ 参考書：実習の記録と指導案 ひかりのくに その他：必要に応じて資料配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実践演習 I 必修・演習・4 5 時間・1 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	保育者は、豊かな教養と高い人格的資質を備え、専門的知識、技術を身に付けていることが求められる。そこで、研究意欲に支えられたそれらの総合的な能力の素地を培うために、学生は、各教員が担当する研究内容の中から1つ選択し、主体的、自発的にそれぞれの研究課題に取り組む。 また、学院祭・ボランティア活動・子育て支援活動において研究の成果を発表する。		
授業内容	1. 教材研究：様々な教材・教具を使って人形作りに取り組み、操作技術を習得するとともに、その上演方法の基礎技能を習熟し、発表の経験をする。 2. 表現方法：音楽的・身体的表現を中心に、オペレッタの創作に取り組み、様々な役を演じることにより表現力を養い豊かな音楽表現を身につけ、保育実践に活用する。等 3. 企画運営：子育て支援事業等の内容を考え、準備運営を自主的に行うことで実践力を高める。		
評価方法	1. 課題への取り組み、製作物、課題発表など総合的に評価 2. 出席点を加味する		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実践演習Ⅱ 必修・演習・4 5 時間・1 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	保育者は、豊かな教養と高い人格的資質を備え、専門的知識、技術を身につけてることが求められる。そこで、研究意欲に支えられたそれらの総合的な能力の素地を培うために、2 つの課題に取り組む。 1 つめは各教員が担当する研究内容の中から 2 つ選択し、主体的・自発的にそれぞれの研究課題に取り組む。2 つ目は器楽・オペレッタを中心に、実践力の強化を目指す。研究大会や 2 年間の集大成として行う卒業演奏会を最終発表の場とする。		
授業内容	1. 設定された科目の中から、学生自身が興味関心を持っている内容を研究のテーマとして 1 つを選び取り上げ、文献研究や実習での実践、研究発表等を通して研究テーマに関する知識を深め、発表を行う。 2. 楽器演奏・オペレッタ・ダンス・合唱などを通して、豊かな表現力を身につける。研究大会参加や卒業演奏会の企画運営も学生主体で行うことにより、総合的な実践力を培う。		
評価方法	1. 課題への取り組み、制作物、課題発表など総合的に評価 2. 出席点を加味する		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	障害児の心理 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	河本 茂美 他
概 要 及 び 目 的	本講義は、各障害の概念（状態像）や必要な援助について理解を深めるとともに、児童虐待などによる愛着や行動上の問題を理解し、発達の視点からみた障害の意味について考えることを目的とする。		
授業内容	1. オリエンテーション 2. 発達早期における障害 3. 知的障害 4. 肢体不自由、重度・重複障害 5. 視覚・聴覚障害、病弱 6. 発達障害①（自閉症スペクトラム障害） 7. 発達障害②（ADHD、学習障害、ことばの障害） 8. 障害の受容と自立 9. 子どもの虐待① 児童虐待とそのリスク 10. 子どもの虐待② 虐待の影響について 11. 保護者への支援 12. 心身の発達と心の障害 13. まとめ 14. 試験 15. 解説・レポート		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 授業態度、出席点を加味する		
テキスト	必要に応じて指定する その都度、関連資料を配布		
備 考	参考図書：葉 祥明「生んでくれて、ありがとう」サンマーク出版		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	障害児の病理と保健 選択必修・講義・15 時間・1 単位	教員名	
概 要 及 び 目 的	心身に障害を持つ子供たちの病理とそれに関連する身体のメカニズムを解説し、保育士として心身障害児を保育する上で必要な基礎的知識を学習する。		
授業内容	1. 重症心身障害児の概念と定義 2. 重症心身障害児の診断と評価 3. 重症心身障害児の実態 ①重症心身障害時の発生と原因 ②重症心身障害児・者の予後 ③動く重症心身障害児 4. 重症心身障害児の主病態と留意点 ①脳性麻痺 ②知的障害 ③てんかん ④心理、行動の問題 5・6. 重症心身障害の主症状と留意点 ①運動、姿勢の障害 ②呼吸障害 ③摂食障害 ④排泄障害 ⑤コミュニケーション障害 ⑥行動障害 ⑦その他 7. 重症心身障害児への支援 家族支援 8. まとめとテスト		
評価方法	1. レポート 2. 試験 3. 出席点を加味する		
テキスト	必要に応じて指定する 松本昭子、土橋圭子編著「発達障害児の医療・療育・教育」金芳堂		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	家庭生活基礎 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	生活全般に関わる身につけたい基礎的な事柄を学び修得する。人と関わる上での所作や技術、日常生活を営む上での生活技術・管理能力（衣・食・住）を学び、学生自身の生活の場や就業先で活かすとともに、保育士として対象となる子ども等への手本となれるよう学習を進める。		
授業内容	1. 生活に必要な技術・管理能力について 具体的技術の習得 環境整備 2～4. 伝承行事について①②③ 5. マナーの修得（所作・SNS 利用・電話 など） 6. 伝承行事について④ 7. マナー修得（手紙の出し方 など） 8. 環境整備・実践① 9. 伝承行事⑤ 10. マナー修得（手紙の出し方） 11. 伝承行事について⑥ 12. 伝承行事について⑦ 13. 環境整備・実践② 14～15. マナー修得（セルフケア）		
評価方法	1. 出席点 2. レポート 3. 演習点		
テキスト	資料配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	リハビリテーションの理論と技法 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	
概 要 及 び 目 的	医学・教育・職業及び社会的側面からリハビリテーションについての基本的知識を学ぶ。具体的には、作業療法や理学療法の見学や障害者体験などを通して、一人一人の障害児・者のリハビリテーションに対する理解を深めていく。さらに、障害児・者の自立の向けた社会資源や援助方法を学んでいき、障害児・者の障害及びニーズを理解していく。		
授業内容	1. リハビリテーションについて 2. 理学療法について 3. 作業療法について 4. 言語聴覚療法について 5. 身体障害者のリハビリテーション 6. 小児の理学療法 7. 小児の作業療法 8. 高齢者のリハビリテーション 9. 感覚障害者・精神障害者のリハビリテーション 10. 移動手段の自立と介助（車いす、杖、装具） 11. 日常生活活動（自助具） 12. リハビリテーション分野における臨床心理士の役割について		
評価方法	1. レポート 2. 試験		
テキスト	その都度、関連の資料を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと感情理解 選択必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	野村 恵里
概 要 及 び 目 的	保育はたくさんの人とのつながりで成り立ち、それぞれがさまざまな気持ちを抱えてかわりあっている。このカリキュラムでは、さまざまな人間関係に携わる保育者として、自他の気持ちを大切にできるコミュニケーションの方法を学び、感情について理解を深めることを目的とする。 また、アンガーマネジメントの理論、実践ワークを通して子どもの怒りとの向き合い方やかわり方について具体的に学び、信頼関係づくりの基礎を培い、よりよい人的環境づくりのヒントを学ぶ。		
授業内容	1. 子どもはなぜ怒るのか？ 2. アンガーマネジメントとは？ 3. 子どもと感情理解 4. 気持ちコミュニケーション 事例を使って考える 5. アンガーマネジメントのテクニック① 6. アンガーマネジメントのテクニック② 7. アンガーマネジメントのテクニック③ 8. アンガーマネジメントのテクニック④ 9. アンガーマネジメントの実践① 10. アンガーマネジメントの実践② 11. アンガーマネジメントの実践③ 12. 子どもが怒ったときの対応法① 13. 子どもが怒ったときの対応法② 14. 子どもが怒ったときの対応法③ 15. まとめ・テスト		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点		
テキスト	中央法規 保育者のための子どもの「怒り」へのかかわり方 野村恵里		
備 考	必要に応じてプリント配布		

年次・学期	1・2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと音楽表現 選択必修・演習・90時間・2単位	教員名	大村 由美子・福島 悦子・竹原 裕子 大下 諭史・土倉 絢子・松田 美佐枝 三徳屋 直子・山地 希美
概 要 及 び 目 的	初歩的な単純な曲から自分なりの伴奏、アレンジまで様々な弾き方をきれいに心こめて演奏できるようになることを目的とする。ピアノや歌唱等を通じて、保育の実践展開のための音楽の技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレージング等）を体得する。		
授業内容	1～45. 各週の個人レッスンで、それぞれに応じた教材を用いて、ピアノの基本的な演奏法を習得するとともに、童謡の弾き歌いもおこなう。 コードネームや和音記号を使った伴奏法を理解できるようにする。 担当教員別による個人レッスンで授業をすすめる。		
評価方法	1. 試験 前期・後期（ピアノ・童謡の弾き歌い） 2. 出席点を加味する		
テキスト	教科書：小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社 小林美実監修、井戸和秀編『子どものうた100』チャイルド本社 その他：レベルに応じたピアノ教本を各自購入		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと造形表現 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	野村 恵里
概 要 及 び 目 的	造形表現における保育の組み立て方や、活動内容の手だてを学ぶ。 乳幼児の視座に立った造形教育を行うための教材作りと、援助の仕方や指導力を高める。		
授業内容	1. オリエンテーション 模擬保育とは 2～4. 保育教材の制作 5. 模擬保育・実践 6. " 7. 様々な材料を使った造形 8. " 9. 行事に活かせる作品作り 10. " 11. 共同制作 12. " 13. " 14. " 15. まとめ・テスト		
評価方法	1. テスト・実技 2. 出席点を加味する 3. 作品提出		
テキスト	教科書：幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材		
備 考	必要に応じてプリントを配布		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	子どもと体育 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	秋政 邦江
概 要 及 び 目 的	「子どもと体育」の前半では、幼児のケアと発達支援に必要な身体運動に関する基本的な知識を理解して、身体能力や運動技能を高めるとともに、幼児が楽しめる運動遊びに関する教材を作成し、それらに必要な知識や技能を習得する。 また、幼児の成長過程における多様な表現を理解し、運動遊びや身体表現による創造性育成の意義を学ぶ。そのうえで、実際の現場で取り上げられる運動遊びや身体表現を行う時の安全を配慮した教材を作成し、それらに必要な知識と技能を習得し、幼児のケアと発達支援の実践に応用することを目指す。		
授業内容	1. オリエンテーション・子どもの身体発育や運動機能についての理解 2. 体つくりとストレッチ 3. 子どもの身体機能の発達と運動遊びの意義 4. 歩く・走る・跳ぶ運動遊び 5. 鬼遊び 6. 子どもの主体性を引き出す運動（心と体の健康） 7. 伝承遊び 8. 手具をしようした運動遊びと指導 9. 縄遊び① 10. 長縄遊び 11. ボール遊びのルールと安全対策の指導 12. フープ遊びのルールと安全対策の指導 13. 手具と身体表現 14. 集団遊びの作成 15. 集団遊びの実際		
評価方法	レポート課題（プログラムの作成） 30 % プレゼンテーション 60 % 授業への参加と協力度		
テキスト	内閣府・厚生労働省、文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館（最新版） 授業で適宜にプリントを配布する		
備 考	遅刻・早退・見学は3回で欠席1回とする		

年次・学期	2 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育内容応用演習 選択必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子 ほか
概 要 及 び 目 的	・養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことの理解また、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を修得する。 ・子どもの発達を保育所保育指針を通して捉え、現場の経験がある教員から具体的に子どもの生活や遊びについて学び、子どもに対する理解を深める。 ・子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら環境の構成、教材や遊具などの活用と工夫、保育の過程（計画・記録・実践・省察・評価・改善）等の実際について理解する。		
授業内容	① 表現力や演技力を磨く エプロンシアター・人形劇・演劇・器楽演奏など、ロールプレイでの授業方法等を活用して演技方の習得をしていく。 実際に、劇団の演技手から指導を受け、具体的に学ぶ。 ② 遊びの導入・指導方法について学ぶ ● わらべ歌・ふれあい遊び・集団あそびなど導入の仕方と指導方法を学ぶ。 ● 発達に即した遊びを理解し、遊びを習得することで、子どもと楽しむ遊び方の実践について学ぶ。 ● いろいろな場面の、導入方法を学ぶ。 ③ 実際に教員による実践例を見ることにより、グループ討議の中で具体的な技術知識を習得する。 ④ 保育や子育て家庭に対する対応・支援のあり方を学ぶ。 ● グループワークをとおして、子どもを取り囲む社会的状況の理解と要因や背景について学びあい、具体的支援のあり方、保護者対応について実践例から学ぶ。 ⑤ 子どもの自己肯定感を築くための、保育現場における言葉かけの実際を学ぶ。 ⑥ 保育現場でのヒヤリハットから子どもの安全について学ぶ。 ⑦ 子ども同士のトラブルなどの対処の仕方について、事例から学ぶ。 ⑧ 保育現場に働く保育士としての基礎知識や、道徳性・規範性を養う。 また、保育士の倫理について学ぶ。		
評価方法	1. 授業内の実技・演習及び、レポート提出 2. 授業に取り組む姿勢		
テキスト	必要に応じてプリントを配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科 目 名	障害児(者)の音楽活動の支援 選択必修・演習・30 時間・1 単位	教員名	出口 隆一・松本 裕子 他
概 要 及 び 目 的	発達を「援助する」活動として、音楽を媒体として子ども達の情緒に直接働きかけて、何かを表現する手段としての音楽をミュージックアカデミーと連携して実際に体験する。子ども達と関わる機会を通して、誰もが自由に楽しめる音楽活動を能動的に捉えることができるようにする。実践前には音楽の自由性という特性を学び、障害児（者）のための音楽教育や活動の理念について学ぶ。		
授業内容	1～2. ミュージックアカデミーの活動・内容・目的 3～4. 障害の特性と理解 5～6. 支援方法・楽器に触れる 7. 音楽療法 8～13. 実践・アカデミーへの参加 14. リハ（本番） 15. レポート日 毎年9月より開講予定のミュージックアカデミーに2回参加する。 「保育の玉手箱」にてミュージックアカデミーの子ども達を招待して、参加型演奏会が開催できるようになることを目標とする。		
評価方法	出席点 試験 2 回のミュージックアカデミーへの参加（必須）とレポート提出		
テキスト	必要に応じて資料を配布 テキスト DVD鑑賞		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習Ⅱ 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概 要 及び 目 的	保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、実際の保育現場において保育実習Ⅰを基礎として、次のことについて指導する。保育の基本的なことへの理解を深め、子どもにとっての環境づくりを学ぶ。具体的な課題を理解し、解決にむけて努力しようとする力。諸教科で学んだ理論との関連性を見出し、知識や指導技術をさらに深める。保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益について学ぶ。		
授業内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体とな行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化		
評価方法	1. 実習施設による評価 2. レポート（実習日誌、実習報告書） 3. 出席点を加味する		
テキスト	教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領＜原本＞ 実習の記録と指導案 ひかりのくに その他：必要な資料を配布する		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習Ⅲ 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 び 目 的	児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育実習Ⅰで習得した知識・技術や諸教科で学んだ理論を踏まえて、施設養護に携わる保育士としての指導技術や知識の習得、施設の利用児・者と養護内容の実際、施設の持つ全体的養護機能、さらには保育士としての役割や職業倫理について学ぶ。		
授業内容	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 2. 施設における支援の実際 1) 受容し、共感する態度 2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3) 多様な専門職との連携 4) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化		
評価方法	1. 実習施設による評価 2. レポート（実習日誌、実習報告書） 3. 出席点を加味する		
テキスト	岡山県保育士養成協議会「施設実習の手引き」		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習指導Ⅱ 選択必修・演習・4 5 時間・1 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ保育実践力を培う。 保育の観察記録、自己評価を踏まえ、保育士の専門性と職業倫理について理解する又実習事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や認識を明確にする。		
授業内容	↑ 実 習 前 ↓ 実 習 中 ↑ 実 習 後 ↓ 1. 保育実習による総合的な学び (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育実践力の育成 (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 (3) 模擬保育、教材作成、指導案作成 3. 計画と観察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 実習中に巡回指導を行い、担当者との連携をもとに、実習生へ助言を行なう 6. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 (3) 振り返り発表		
評価方法	1. レポート（実習日誌、実習報告書） 2. 実践評価 報告会の発表 3. 出席点を加味する		
テキスト	教科書：幼稚園教育要領 フレーベル館 保育所保育指針 日本保育協会 幼稚園教育要領解説 文部科学省 岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引」 実習の記録と指導案 ひかりのくに 乳児の発達と育児 エイデル研究所 その他：必要に応じて資料配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育実習指導Ⅲ 選択必修・演習・4 5 時間・1 単位	教員名	児童福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	保育実習Ⅲの意義・目的を明確にするとともに、保育について総合的に学ぶ。障害児者施設及び児童福祉施設の目的や機能、保育内容、養護内容、役割などについても理解を深め、幅広い視点で児童の生活を捉えることができる知識を身に付ける。		
授業内容	↑ 実 習 前 ↓ ↑ 実 習 中 ↓ ↑ 実 習 後 ↓ 1. 事前指導として、実習課題の明確化・実習施設の理解を行う。 1) 実習課題の設定 2) 実習施設における見学・オリエンテーション 2. 実習中に巡回指導を行い、実習施設の担当者との連携をもとに、実習生のスーパービジョンを行う。 3. 実習後、実習総括・評価を行い、実習報告会を実施する。新たな学習目標を明確化させる。		
評価方法	1. レポート 2. 出席点を加味する 3. 報告会の発表		
テキスト	岡山県保育士養成協議会 編「施設実習の手引き」 民秋 言他編 新保育ライブラリー「施設実習」北大路書房		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	施設基礎実習 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 び 目 的	児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、障害児（者）との触れ合いを通すことにより、障害児（者）に対して保育士としてどのような関わりができるのかを学ばせ、保育士として、広い視野を持って利用者を支援するための力を養うことを目的とする。		
授業内容	【実習施設】 社会福祉法人旭川荘内の各施設 ・旭川学園 ・愛育寮 ・いづみ寮 ・旭川荘療育・医療センター旭川児童院 ・あおば、デイセンターあかしや 他 それぞれの施設で利用者との触れ合いを通して、障害児（者）施設の現状や今後の方向性について学ぶ 実習前 1. 実習の意義・目的の理解 2. 実習施設の理解 3. 旭川荘の紹介 4. 実習の心構え 5. 提出書類の作成 6. 課題の設定 7. 記録の意義・方法 8. 介護技術体験 実習中 巡回による指導 実習後 1. グループによる実習のまとめ 2. ふり返し発表 3. 実習評価を元に今後の課題を明確化する		
評価方法	1. テスト 2. レポート（実習日誌） 3. 出席点 4. 実習施設による評価		
テキスト	岡山県保育士養成協議会 編「施設実習の手引き」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	保育所基礎実習 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概 要 及 び 目 的	保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育所での参加型実習を通して知識・技術を習得させるとともに、保育士の役割、責務について理解させ、また、一日の園生活の流れを知り、子どもの発達やあそび等が学べるようにする。		
授業内容	1. 保育所の役割や機能 2. 観察・参加に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の発達や活動の観察や理解 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開・雇用の把握 (4) 絵本の読み聞かせ、手あそび等、実践する 3. 観察記録 4. 自己課題		
評価方法	1. レポート（実習日誌） 2. 出席点を加味する		
テキスト	教科書：岡山県保育士養成協議会 編「保育所実習の手引き」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	レクリエーション援助技術 選択必修・実技・30 時間・1 単位	教員名	久保園 明美
概 要 及び 目 的	福祉現場のさまざまな対象者について理解を深め、対象者に合ったレクリエーションのプログラム作りから実践までの力を身につける。		
授業内容	1. オリエンテーション 2. レクリエーション体験 3. " 4. " 5. 福祉レクリエーション体験 6. " 7. " 8. 福祉レクリエーション財の開発とアレンジ法 9. " 10. " 11. " 12. " 13. ボッチャ体験 14. " 15. テスト		
評価方法	1. 授業中の意欲・態度・出席状況 2. テスト・レポート		
テキスト	資料を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	児童福祉学科
科 目 名	障害者スポーツ指導員養成講座 選択必修・講義・15 時間・1 単位	教員名	上田 千恵 他
概 要 及 び 目 的	近年、老若男女を開わず、全ての国民の健康な生活を守るために、国を挙げてスポーツの振興が叫ばれている。したがって、健常な人以上に健康に注意の必要な障がい者のスポーツ活動は重要といえよう。 そこで、近年のわが国のスポーツの振興状況とともに、障がい者のスポーツが特殊なものではないことを理解し、その振興についての知識を深める。		
授業内容	1. スポーツ振興の理由 2. 障がい者の行っているスポーツの理解 3. 障がい者のスポーツ振興を支える条件 4. 障がい者の競技スポーツの現状 5. 障がい者のスポーツ指導とその留意事項 6. スポーツと安全管理 7. (公財) 日本障がい者スポーツ協会公認指導者制度 8. 障がい者スポーツの実際		
評価方法	レポートによる		
テキスト	冊子「障がい者のスポーツ振興」を使用する		
備 考			